ジュリアン・サンズ ジョアンナ・パクラ チェッキー・カリョ

マウロ・ボロニーニ:監督 アルベルト・モラヴィア:原作 (文藝春秋刊)

エンニオ・モリコーネ:音楽 ジュゼッペ・ランチ:撮影監督

1991年/イタリア映画/カラー/ヴィスタ・サイズ/95分 配給: デラ 提供: デラ・コーポレーション/TBS 宣伝協力: 俳優烽シネマテン HUSBANDS AND LOVERS 報映画報訳付金



## 金曜日の別荘で

女と男は、夫婦、という名の他人。 それでも互いを 求めないではいられない 運命の恋人だった……。

愛し合い、狂おしく求め合っているにもかかわらず、 アリーナとステファノの濃密な情熱の間には、 頂点に達する性愛だけが欠けていた。 隠し立てしない取り決めのもと、 アリーナは週のうち5日を夫と過ごし、 週末を愛人と過ごす事を夫に申し出た。

体のラインを際立たせる挑発的な真っ赤なドレスに身を包み、アリーナはこの週末も海辺の別荘へと出掛けて行った。彼女の乗ったローバー・ミニは、海岸線を軽快に走る。アリーナを待つのはピアニストの愛人。激しい性愛の予感に彼女の頬はすでに上気し、官能的な美しさで輝いている。そんな妻を、張り裂ける思いでだまって見送る夫のステファノ。帰って来たアリーナは愛人との週末の熱い物語を語ってくれるだろう。ステファノにとっては終わりのない、いつもの苦しみの夜。もう、女と男は"夫婦"という名の他人、そしてそれでも互いを求めないではいられない運命の恋人だった……。

禁断の愛に揺れる3人の男女 ―― ジュリアン・サンズ、ジョアンナ・パクラ、 チェッキー・カリョ。

「眺めのいい部屋」「太陽は夜も輝く」のジェリアン・サンズ、「ニキータ」のチェッキー・カリョ、そして輝く肢体を借しげもなくさらし、2人の男を虜にする女には、新星ジョアンナ・バクラ。"ヴォーグ""ハーパース・バザー"等でも活躍するトップ・モデルであると同時に、これからの活躍が期待される国際女優である。彼女の着るアルマーニの赤いドレスは苛立ちと反発、そして挑発のメタファーとして印象的だ。

心から夫を愛しながらも 週末を愛人の別荘で過ごす美しいアリーナ。 イタリアの文豪モラヴィアが 描いた挑発的な愛の物語。

背徳の作家アルベルト・モラヴィアが、 妻のエルサ・モランテと 彼女の愛人ルキノ・ヴィスコンティ、 そして自分自身との三角関係を基に 描いたと言われる原作 「金曜日の別荘」の映画化。

「愛人ラ・マン」「裸のランチ」「ハワーズ・エンド」と著名な文学の映画化が続いているが、このモラヴィアの超個人史とも言える「金曜日の別荘で」もそのひとつ。出版された『モラヴィア自伝』によれば、「禁じられた恋の島」の原作者でもある、彼の最初の妻エルサとヴィスコンティとの愛人関係は2年間ほど続いた。彼女はヴィスコンティの情熱の模様をも、事細かにモラヴィアに話して聞かせたという。それはまさに、アリーナとステファノの関係そのもののようだ。このスキャンダラスな愛の物語は、男女関係に生じるいくつもの疑問符を見る者に問いかけて来るだろう……。





イタリアの〝芸術″が結集した 秀逸なるスタッフ。

監督はモラヴィア文学の映画化はこれが3度目と



いう巨匠マウロ・ボロニーニ。淡々とした語り口の中に、時折愛と憎しみが責めぎあうさまは、モラヴィア文学の真髄を見事に視覚化したといえる。音楽は世界的に活躍する「ニュー・シネマ・パラダイス」等のエンニオ・モリコーネ、撮影はイタリアの地を撮らせたら現在右に出る者のいない「ノスタルジア」「太陽は夜も輝く」のジュゼッペ・ランチ。そして主人公夫妻の衣装はジョルジオ・アルマーニが担当した。尚、「プロスペローの本」にも出演しその特異な存在を広く知らしめた、イギリスのモダン・ダンス界の神童マイケル・クラークが、サティの曲に合わせて踊るのも見物である。

## 8月1日はより夏休みロードショー!

特別鑑賞券1400円/ペア券2600円 絶賛発売中(当日一般1700円/学生1300円のところ)

## 俳優座シネマテン

六本木・俳優座劇場内 ☎03(3401)4073

連 日 11:30 1:20 3:10 5:00 7:00